

坂本文学を読む会

坂本文学へのいざない

坂本文学を読む会は、旧東条町時代の平成十六年に坂本遼生誕百年記念事業として、坂本遼文学資料館主宰の山本英孝さんを講師に招き、東条図書館で始められた文学講座です。

合併後も加東市の事業として引き継がれ、第四回を数える今年の講座にも、加東市全域、また市外からも参加者が集い開催されています。

今年度は、すでに四回の講座が終了し、第五回のまとめを残すのみとなっていますが、参加者のみなさんには、それぞれに坂本文学から多くのことを感じていただいているようです。

来年度も、坂本文学を読む会を続けていく予定ですので、興味のある方は、ぜひご参加ください。(平成二十年度の坂本文学を読む会は平成二十年三月頃に募集を行う予定です。)

また、来年五月には、坂本遼を偲ぶ「たんぼぼ集会」の開催も検討されています。

問い合わせ
加東市東条図書館
☎47・6050



山本英孝さん(厚利)

自宅に坂本遼文学資料館を開設し、坂本文学を読む会の講師も務める。

加東市の詩人に
ともに親しみましょう

私が初めて坂本文学と出会ったのは、三十年ほど前の第六回たんぼぼ忌を伝える新聞記事でした。そこに紹介された「お鶴の死と俺」の一節に、私の母の姿が重なり胸を打たれました。

それ以来、この詩人の作品と関係資料の収集を始めました。平成十五年には、翌年の坂本遼生誕百年を記念し、自宅の一室にその資料を展示し、「坂本遼文学資料館」を開設しました。

いつか、市の文化施策によって、郷土の詩人にふさわしい姿になればと願っています。

ともあれ、この場所は、坂本文学だけでなく地域の文化、文学、人権教育を語る小さな広場ですので、お気軽にお立ち寄りください。

【坂本遼文学資料館】
加東市厚利一〇〇番地六
☎46・0193



写真約30点、書籍約125点が展示された坂本遼文学資料館。平和と人権に関する資料を展示した分室も設けられています。



坂本文学を読む会(東条文化会館にて)

坂本文学を読む会に参加して
〜 昨年の感想文から抜粋〜

「坂本遼の詩は、息子の小学校の教科書で初めて知りました。このたび改めて勉強して、その深い思いを少し理解できた様に思います。息子を思いながら孤独に耐え働く母。また、息子も母を強く思っている。その気持ちが方言によって心の奥にストレートに響きました。また、手紙という形式もそれを倍増させたと思います。我慢できる息子を持ち、手紙で何でも話せる相手がある母は幸せだったと思います。その母の姿が目に見え、日向の詩に心惹かれます。ささやかですけれど穏やかで温かな気持ちを感じました。」

烏田敦子さん(黒谷)

お鶴の死と俺

『おとつあんが死んでから
十二年たつた
鶴が十二になつたんやもん』
と云つて慰められてをつたお鶴が
死んでしもつた

はじめて氷が張つた夜やつた
わかれの水をとり脊戸へ出て
桶に張つた薄氷をさつくとわつて
水を汲んだ

お鶴はお母とおらの心の中には
生きとるけんど
夜おそつまでおかんの肩をひねる
ちつちやい手は消えてしもつた

加東市の図書館で読むこと
のできる坂本文学

- たんぼぼ 坂本遼 著
- たんぼぼの詩 坂本遼作品選 坂本遼 著 姫路文学館編
- まよ たつしやか 坂本遼詩集 坂本遼 著 山本英孝 編
- かきおきびより 坂本遼児童文学集 坂本遼 著 山本英孝 編
- きょうも生きて(第一部) 坂本遼 著 山本英孝 著
- おかん 〳〳〳の切実なるもの結晶 山本英孝 著
- たんぼぼのうた 坂本遼の詩と時代 松尾茂夫 著
- おかんのいる風景 〳〳〳たんぼぼの詩人坂本遼断章 高橋夏男 著
- わたぼうし 坂本遼生誕百年記念実行委員会編



東条図書館入り口にある坂本遼文学コーナー

おら六十のおかさんを養つたため
働きにいく
お鶴がながい間飼ふた牛は
おらの旅費に売つてしもつた
おかんとおらは索かれていく牛見て
涙出た

「詩集たんぼぼより」

仏になつたお鶴よ
許してくれよ
おら神戸へいて働くと



急ぎすぎる時代の中で

詩集「たんぼぼ」が発刊されてから八十年が過ぎました。その間に、先人のたゆまぬ努力により、日本経済の高度成長期を経て、私たちはいま大きな恩恵を受け、豊かな暮らしを送ることができています。

しかし、経済成長の中では、利益や利便性が最優先に追求されてきました。また、現代では、豊かさや便利さが日常にあふれ、日本社会は成熟期を迎えたとはいえ、情報通信技術の革命的な進歩により、さらなる効率性や利便性を求め続けています。ただ、その便利さの中で私たちは多くのものを失いつつあると盛んに指摘されています。

一方、駆け足で進む時代の中で、ふと立ち止まり、失いかけている何かを見つめ直し、取り戻そうという活動が目されるようになってきました。

詩人を偲び、その業績と人柄を顧みる「たんぼぼ忌」や、郷土の詩人に触れ、その優しさを感じることで、失われつつある何かを探そうとする「坂本文学を読む会」(東条図書館主催)はそのような活動のひとつであるように思います。

坂本文学からのメッセージ

人それぞれに自分の生まれ育った故郷があります。母のイメージは何か故郷の象徴であるように感じる方も多いのではないのでしょうか。そして、地域の言葉「方言」もまたふるさとを強く意識することができるものです。

坂本遼の描く「おかん」とは、その両方を満たして私たちにふるさとを再考させてくれます。誰の記憶の中にも、母や家族の愛情や地域で育まれた想い出が、ふるさとの風景とともにきつとあるはず。いま失われつつあると言われている人と人の絆がそこにあるように思います。

「たんぼぼ」が発刊された八十年前も今も、その大切さに変わりはないでしょう。みなさまの家庭や地域においてその絆をもう一度見つめ直し、深めていただくことで、加東市がより心豊かな暮らしをもちまちへと発展するのではないのでしょうか。

ぜひ一度、坂本文学に触れていただき、郷土の詩人が八十年の時を経て私たちに語りかけてくれるメッセージを受け取っていただきたいと思います。